

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 15 日

1. 職名・氏名 准教授・渡邊 綾

2. 学位 学位 博士、専門分野 応用言語学、授与機関 神戸大学、授与年 2018 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等	英語 I (1 単位) 1 年生、2025 年度（前期 1 コマ：海洋生物資源学科、先端増養殖学科）
② 内容・ねらい	英語 I のねらいは、基本的な英語でのコミュニケーション能力を養うことである。そのため、身近なトピックについて会話をし、教科書で取り上げられている TED talk を通して英語表現や語彙力、そしてリスニング能力を深められるような活動を多く取り入れた。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	講義を行う上で、できるだけ学生が自発的に参加（発言や質問）できるよう、授業に積極的に参加した学生に対しての評価が明確になるよう工夫した。Google Classroom を使って、課題や教材をアップし、丁寧な説明を心掛け随時復習できるようにした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等	英語 B (2 単位) 1 年生、2025 年度（前期 1 コマ：看護学科）
② 内容・ねらい	英語 B のねらいは、英語 A で学ぶ文法事項や語彙表現を実際に英語で運用、発信できるようになることを目指す。また、総合的な英語運用能力を高め、専攻分野で応用できるような内容を取り入れている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	専攻分野の内容に近い教材を選択し使用した。基本的な英語表現と併せて、実際の医療現場で使われる英語表現を学び、看護師と患者役のロールプレイ等を通して運用できるように練習した。
① 担当科目名（単位数）主たる配当年次等	英語発展 VI A, VI B 1 年生以上 2025 年度（前期 2 コマ、後期 2 コマ：対面と遠隔）
② 内容・ねらい	英語発展のねらいは、英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための基礎を習得し、英語を用いたコミュニケーション力をのばすことである。情報伝達型プレゼンテーションと説得型プレゼンテーションのスタイルを学び、実際に英語のプレゼンテーションを行った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	・基礎的な英語力を上げながら、スピーキングに焦点を当てて、英語スピーチのスキルを身に付けることを目指した。自己紹介・趣味など身近なトピックを基に英語のスピーチの構成を理解した上で、プレゼンテーションの原稿作成、スライド作成に繋げた。教員からのフィードバックを通して原稿・スライドの修正を行い、プレゼンテーションの練習、そして発表へと繋げた。さらに、発表の録画を確認して、客観的な自己評価を促し、プレゼンテーションの一連のプロセスを学習した。 ・後期の最終プレゼンテーションでは、福井県国際交流員インストラクターにも観客としてゲストで入ってもらい、質疑応答等の練習を行った。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 II（1 単位）1 年生、2025 年度（後期 2 コマ：海洋生物資源学科、先端増養殖学科）
② 内容・ねらい 英語 II のねらいは、英語 I に引き続き基本的な英語でのコミュニケーション能力を養うことである。英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの 4 技能をバランス良く身に付けられる教科書を選択し、使用した。発信能力をより養うため、学期末には全員が個人で英語のプレゼンテーションも行い、英語を用いたコミュニケーション能力の向上を目指した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・講義を行う上で、学生が自発的に参加できるよう、授業に積極的に参加した学生に対しての評価が明確になるよう工夫した。中間の時期にはアンケートを実施し、授業がスムーズに進んでいるかどうか、学生の声を取り入れて改善するような機会を設けた。 ・英語 II（先端増養殖学科）：まとまった英文の読解に焦点を当て、特に英語で書かれた長文がどのような役割をもつ段落から構成されているかを分析して読むことを促した。授業の初めに Timed Reading という速読練習を行うことで、速く正確に読む力を養った。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 D（2 単位）1 年生、2025 年度（後期 1 コマ：経営学科）
② 内容・ねらい 英語 D のねらいは、専門分野に応じた英文を用い、おもに読解力・リスニング力を鍛え、総合的な英語運用能力を高めることである。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 章毎にワークシートを作成し、実際の英文記事の書き取りや、英単語の定義を英語で記した単語リストを使って、ビジネス英語や時事英語をより理解できるよう工夫した。その後、英文記事を自分の言葉で要約する練習を行うことで、英文記事の理解を深めた。
(2)その他の教育活動
内容 ハワイ異文化体験研修プログラムの立ち上げ：ハワイ大学マノア校附属の英語学校 Hawaii English Language Program (HELP)で、英語の学習と現地の文化や歴史に触れることができる 2 週間のプログラムを立ち上げた。 【学外】 福井大学医学部医学科 2 年次生の専門科目：「医学英語 1」を非常勤講師として担当した。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
② 学術論文（査読あり）	
1. Ishino, M., & <u>Watanabe, A.</u> (2025). Quick body torque toward blackboard at third position: Teachers' material practice in classroom interaction. <i>Journal of Pragmatics</i> , 238, 19-36. https://doi.org/10.1016/j.pragma.2025.01.007	【1 本】
③ その他論文（査読なし）	
1. <u>Watanabe, A.</u> , & Ishino, M. (2025). "Enacting K- status" to elicit response: Establishing conjoined participation for young learners, <i>CAN-Asia Symposium on L2 Interaction Conference Proceedings</i> .	【1 本】
2. 学会発表等	
* 1. <u>Watanabe, A.</u> , Lee, J. and Fujiwara, T. (2025). <i>Analyzing simulated medical interactions of novice medical students in Japan</i> . Paper presented at the American Association of Applied Linguistics (全米応用言語学会), Denver, Colorado, USA, March 22-25. (3/24)	
* 2. <u>Watanabe, A.</u> , and Ishino, M. (2025). " <i>Enacting K- status" to elicit response: Establishing conjoined participation for young learners</i> . Paper presented at CAN-Asia Symposium on L2 Interaction, Pusan, Korea, May 10-11 (5/11)	
* 3. Watanabe, A., and Ishino, M. (2025). " <i>Enacting K- to Establish Conjoined Participation in language classrooms for young learners</i> . Paper presented at the International Pragmatics Association（国際語用論学会）Conference, Brisbane, Australia, June 22-27. (6/26)	【3 件】
3. その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 「親子間ダイアロジックリーディングを使ったエビデンスに基づく英語教育モデルの開発」 令和 7 年度（2025 年度）独立行政法人日本学術振興会 二国間交流事業 韓国との共同研究（NRF） 課題番号：120248809（研究代表者） 備考：令和 9 年度-12 年度 日本学術振興会 科学研究費 基盤研究(C) 申請済	
【学内】 令和 7 年度（2025 年度）個人研究推進支援（ステップアップ研究支援）「医学部低学年生の英語医療面接におけるコミュニケーション技能の解明と教材開発」	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

【国内】

静岡大学 MCA ワークショップ参加（5 月 30 日）

第 28 回日本医学英語教育学会参加（7 月 12-13 日）

同志社大学 応用会話分析ワークショップ参加（7 月 26 日）

【海外】

・ 韓国・梨花大学でワークショップ Using the body as an interactional resource in EFL Classroom Interaction for young learners. を行う。（2 月 28 日）

・ 国際語用論学会(IPrA)で“Multimodal and multilingual storytelling practices in early childhood” と題したパネルを共同研究者の Lee 准教授（梨花大学）と共同でオーガナイズ（6 月 26 日）

5. 地域・社会貢献活動

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
国際センター 教授会 (令和7年4月～現在に至る) (教務担当として、非常勤講師への連絡や後期 TOEIC Bridge 試験の調整等を行った。) 国際委員会委員 (令和7年4月～現在に至る) FD 部会委員 (令和7年4月～現在に至る) 共通カリキュラム全学委員会委員 (令和7年4月～現在に至る)
(3)学内行事への参加
4月2日 履修登録時の学生のガイダンス 4月24日 全学ミーティングに出席 5月15日 ワールドカフェで開催された海洋生物資源学部1年生対象の海洋交流会に参加し、 短期海外留学研修プログラムを紹介 7月24日 海外研修導入説明会 8月3日 オープンキャンパスにて保護者向け説明会で国際センターの説明 9月24日 後期オリエンテーションにて一般教育履修ガイダンスにて説明 10月17日 ハワイ異文化体験研修説明会 12月9日 フィンドレー大学派遣奨学生 面接委員 (2024年～現在に至る)
(4)その他、自発的活動など
・ハワイ異文化体験研修を福井工業大学と共同で実施するため、福井工業大学を訪問(7月16日)し、打ち合わせを行った。 下記2点の打ち合わせと施設の視察のため、9月16日・21日よりハワイへ出張 ・ハワイ大学マノア校付属の語学学校(HELPプログラム)を訪問、海外研修プログラム(ハワイ異文化体験研修)を調整し2026年2月に実施(予定)。 ・ハワイパシフィック大学とのプログラム構築に向けた視察・ディスカッションを行った。 ・お笑いサークル FPU-O の顧問 (2024年～現在に至る)